



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一七五号）

しゅんぶん
春分

三月二一日

月読宮の造営すすむ

式年遷宮は、内宮、外宮に続いて、今年は別宮で順次行われます。

まずは内宮から少し離れた伊勢市中村町の別宮、月読宮つきよのみやと月読荒御魂宮あらかみたまで、一月に立柱祭、上棟祭、二月には萱葺屋根かやぶきに萱を葺く「のき付」祭が執り行われました。

月読宮は、内宮のご祭神の天照大神の弟神である月読尊をまつります。外宮にも月夜見宮という別宮がありますが、同じご祭神です。それほど重要な役割をもつ神さまなのでしよう。

書物によって、月読、月夜見と異なる表記がなされています。もともとは同じ神であるのに、口伝で伝わっていく間に地域や氏族によって異なる変遷があり、文字表記するときに異なる字があてられていったと考えられます。それほど長い歳月が流れたことを物語ります。

近代歌人を代表する与謝野晶子は、伊勢神宮に参拝した際、月読宮にも詣でたようです。

夕月のひかりのごときめでたさよ
木立の中の月読宮

（夕方の空に光る月のようにめでたいことよ、森の中に建つ月読宮は）

月読宮は四つの別宮がずらりと並び、どの社殿も南を向いて建っています。私はここで夕月を見たことはありませんが、おそらく四つの社殿の後ろの西の空に夕月が輝いて見えたのでしよう。

萱を葺き終え、屋根に金具をつける萱祭いらかさいは、三月二十日。ここまで造営は進んでいます。今から、新しい月読宮を拝見できることが楽しみです。

文 千種清美

